

# まなぶくんだより

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌



## 所長メッセージ～学び続けるということ～

教育センター学びの丘  
所長 鈴木晴久

昨年6月に、「Society5.0」<sup>※1</sup>に向けた人材育成に係る大臣懇談会が、『Society5.0 に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～』という報告書にまとめられました。

「Society5.0」とは、「仮想空間(サイバー空間)と現実空間(フィジカル空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」のことで、我が国がめざすべき未来社会の姿として提唱されたものです。

これからあらゆる産業や社会生活に人工知能(AI)やビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化して取り入れられ、社会の在り方自体が劇的に変化することが予想される中で、新たなサービスやビジネスによって生活が便利で快適なものになるという期待とともに、あまりにも大きな変化に対し不安を感じることもあります。

こうした状況を受けて、国民にはどのような能力が必要か、また、社会を創造し、先導するためにどのような

材が必要かについて議論されたのがこの懇談会です。

「Society5.0」において「共通して求められる力」として挙げられたのは、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力の3つです。

これらの力は、これまでの学校教育においても育もうとしてきた力であり、目新しいものではありません。しかし、これらの力を育むために示された、今後取り組むべき教育政策の方向性(I～III)については、かなり踏み込んだところまで提唱されています。

- I 「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習の機会と場の提供
- II 基礎的読解力、数学的思考力などの基礎的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得
- III 文理分断からの脱却

これからは、学校だけでなく大学やNPO、企業、地域等、様々な場を使って、いつでも、どこでも学べるように

するとともに、思考の基盤としてSTEAM<sup>※2</sup>教育を全ての生徒に提供し、これまでの文系・理系という枠を取り払うといったことまで求められています。

この報告書では、これまでの学校教育を「学校 Ver. 1.0(「勉強」の時代)」、2017年の学習指導要領改訂以降を「学校 Ver. 2.0(「学習」の時代)」とし、「Society5.0」に向けた学校教育を「学校 Ver. 3.0(「学び」の時代)」としています。

こうした社会や学校教育の変化に対応し、次世代を生きる子供たちを育むためにも、教師自身が学び続けていかなければなりません。

教育センター学びの丘もまた、これからも教職員の皆さんの学びに対してより良い支援を提供できるよう、学び続けていきたいと思っております。

※1 Society5.0 = 狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く新たな社会。  
※2 STEAM = Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)

## 教職経験年数に対応した研修の一部を変更します

新年度から、研修動画の視聴を活用することで、教職経験年数に対応した研修のプログラムを一部変更して実施します。

特に、初任者研修と中堅教諭等資質向上研修【新規】においては、指定する研修動画の視聴及びワークシート等を作成する校内研修に取り組むことで、それぞれ校外研修を1日縮減します。なお、この校内研修は、これまでに設定している時間の枠内で取り組むこととしますので、新たな負担が生じるものではありません。また、作成したワークシート等は、その後実施する校外研修において活用します。これにより、校内研修と校外研修のつながりを一層強めることができます。

### 初任者研修における研修動画の活用

4月～5月に、「授業づくりについて」及び「学習指導案について」の2本の研修動画を、初任者と指導教員等と一緒に視聴する。日々の授業づくりに関して協議を深め、学習指導案の作成に取り組む。

### 中堅教諭等資質向上研修【新規】における研修動画の活用

「これまでの教職生活を振り返る」及び「中堅教諭等資質向上研修について」の2本の研修動画を校内研修の一環として視聴し、ワークシートを作成する。このワークシートは、初回に実施する校外研修の資料として活用する。

### ※研修動画のサンプル画面

研修動画①～授業づくりについて～

- II 「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」の充実
- 2 児童生徒が自分の考えを書く時間を確保する。

自分の考えや、わかったことなどを書く。

自分の考えを書いたものをもとに、学級やグループで交流する。

自分の考えをまとめなおす。

新たな気付きなどから自分の考えを修正したり、より深めたりできる



左記の他、指定する動画研修パッケージの視聴及び課題レポートの作成等により、経験年数に対応した研修の選択研修として読み替えることを可能にします。

詳細については、後日、学びの丘ウェブページ等でお知らせします。



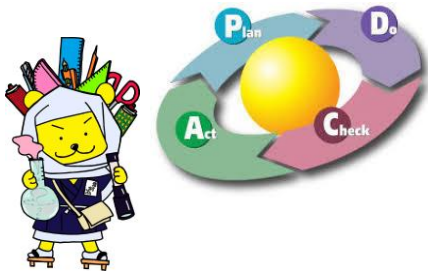
# 学校支援事業の更なる活用に向けて

## 学校支援

取組を進める一助に!

今年度は、各教科等の授業づくりや校内研修等の要請を300件近くいただき、サポートを実施しました。特に、学習指導要領改訂を見据えた授業づくりや学力の課題解決につながる授業改善について、多くの要請をいただきました。また、計画的な複数回の要請や市町村教育委員会単位での研修というケースも増えてきています。

今後も学校の課題解決や学び続ける教員を支援できるよう取り組んでいきますので、学校のPDCAサイクルの活性化に学びの丘Eサポートをご活用ください。



## 動画研修パッケージ

いつ見るの? 今でしょ!

今日の教育課題に対応した44本のコンテンツを、学びの丘ウェブページに掲載しています。「著名講師のお話をいつでもどこでも視聴できありがたいです。」「事前視聴で学んだことをグループで共有することで、より内容の理解が深まりました。」等、様々な場面でご活用いただいています。活用の事例等を紹介するガイドもご覧ください。

NEW

## きのくに学習館.net

県内の実践がココに!

学びの丘ウェブページに「きのくに学習館.net」というコンテンツが追加されました。ここでは、県内各地方で行われる研究授業や研究発表会の情報と、県内で取り組まれた研究会等における学習指導案等を掲載しています。現在、約40本の学習指導案、コンテンツがあり、今後も増やしていく予定です。

近隣の学校の取組、一見の価値アリです!



### 平成30年度動画研修パッケージ コンテンツ

30-1	道徳科の全面实施を迎えて③ ～「道徳科」の指導と評価～	四天王寺大学 准教授 杉中 康平氏
30-2	若手教員に求められる学級担任、授業づくりの心構え	帝京科学大学 教授 鋤持 勉氏
30-3	小学校外国語活動及び外国語科の授業づくり	文部科学省 教科調査官 直山 木綿子氏
30-4	思考力・判断力・表現力の育成をめざす言語活動 ～論理的に思考する「考える」授業づくり～	明星大学 教授 白石 範孝氏
30-5	中学校国語科における授業づくり ～確かで、豊かな国語科授業づくりに向けて～	兵庫教育大学 教授 吉川 芳則氏
30-6	プログラミング教育について	大阪電気通信大学 教授 兼宗 進氏
30-7	和歌山県教員のための、明日から即実践できる プログラミング教育について	和歌山大学 教授 豊田 充崇氏

## 組織的・計画的な取組で、学力向上をめざそう!

### 「学力向上プログラム【学校用】」を新しくしました

平成31年度版では、評価問題の配信は、8月の1回としています。これは、7月末の全国学力・学習状況調査の結果公表を受けて、学校の先生方が学習指導の充実や改善によりつなげやすいものにするためです。教育センター学びの丘が配信する動画研修パッケージ等と併せてご活用ください。

### 来年度も2つの指導改善サイクルで取組を行います

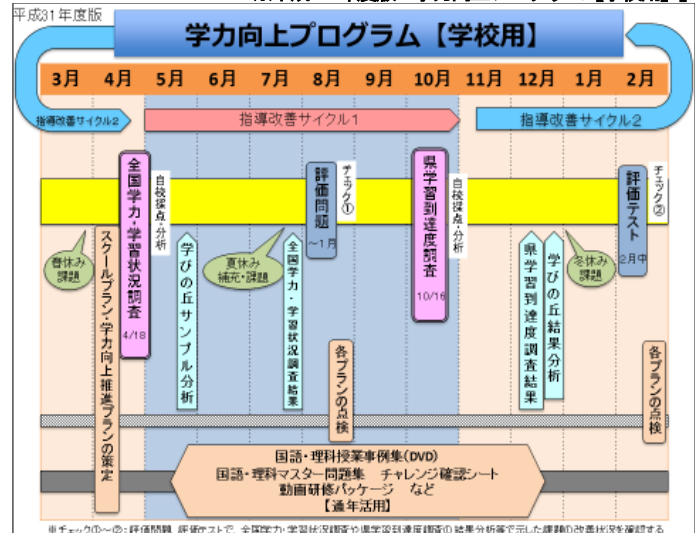
5月から10月までの「指導改善サイクル1」では、全国学力・学習状況調査における県のサンプル分析や自校採点結果を受けて、7月末の全国学力・学習状況調査結果公表までに、1学期中から授業や補充学習等において児童生徒の学力に課題が見られた部分の改善に取り組むとともに、定着状況を評価問題でチェックします。

11月から翌年4月までの「指導改善サイクル2」では、10月の県学習到達調査結果を受けて、引き続き課題が見られた部分の改善に取り組み、定着状況を2月の評価テストでチェックします。

### 指導改善サイクルを効果的に進めていくために...

このようなサイクルを効果的に進めていくためには、評価問題をはじめとする県が配信している様々な問題等を活用することはもちろん、調査問題の自校採点結果をもとに児童生徒の課題について全教職員で話し合い、課題解決に向けて組織的・計画的に取り組むことが必要です。管理職のリーダーシップのもと、全教職員が一丸となって授業改善に取り組み、結果の共有により児童生徒の変容を実感することで、学校力を高めていきましょう。そして、全ての児童生徒が分かる喜

※平成31年度版「学力向上プログラム【学校用】」



びを感じられるよう、学校、市町村教育委員会、県教育委員会が手を取り合い、和歌山県の児童生徒の学力向上に向け、歩みを進めていきましょう。

最後になりましたが、各学校におかれましては、今年度の学力向上プログラムの実践にご協力をいただき、ありがとうございました。来年度もリニューアルしたプログラムのもと、引き続き取組を進めていただきますようお願いいたします。

先生方みんなで力を合わせ、授業づくりについて考えていきましょう!

